

3-2 在アメリカ外邦図の所蔵状況－議会図書館・AGS Golda Meir 図書館・ハワイ大学ハミルトン図書館の調査から－ 今里悟之（大阪教育大）・久武哲也（甲南大）

1 はじめに

旧日本軍が軍事用に作製した日本国外の地図である「外邦図」は、戦後、国内外に散逸し、その所在や作製の実態そのものに関して、不明な部分が多い。その所在が確認されているのは、現在、国内では東北大学・お茶の水女子大学・東京大学・立教大学・国立国会図書館・京都大学・広島大学など 20 以上の諸機関、海外ではアメリカ議会図書館 (LC)・アメリカ地理学協会 (AGS)・クラーク大学・大英図書館 (BL) などである。

外邦図が作製された地域は、千島・樺太・シベリア・蒙古・満州・中国本土 (支那)・朝鮮・台湾・東

南アジア・インド・南洋諸島など、アジア・太平洋全域に及ぶ。その種類としては、周知の地形図・水路図 (海図)・航空図のほか、兵要地誌図 (作戦図)・陸海編合図・空中写真要図・市街図などがある。

兵要地誌図とは、道路の通行、海岸への着船、航空機の離着陸、水の供給、地誌一般、集落の人口など、軍事作戦に必須の情報が詳細に記入された地図で、地形図 (時には現地国あるいは宗主国が作製したもの) の上に朱・青・緑などで文字・記号・線・面などが上刷されている。また空中写真要図とは、例えば河川とその周辺部のみを空中写真撮影し、それをスケッチ風に平面図化した応急作戦図である。

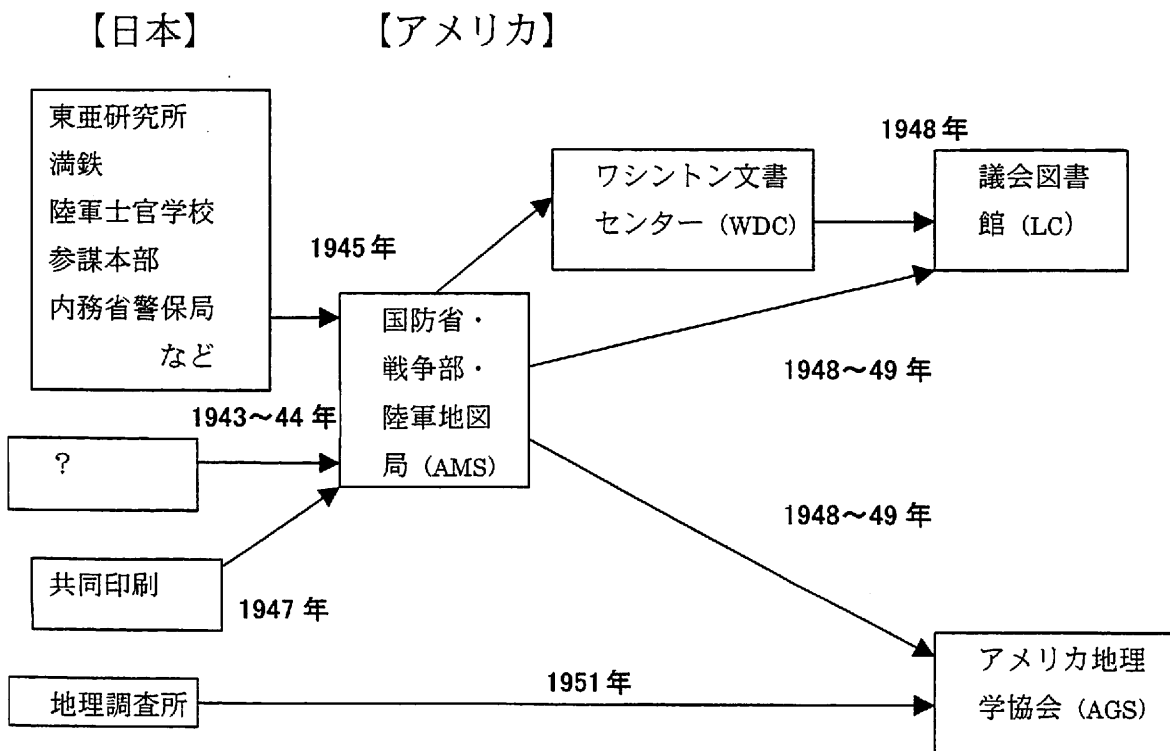


図1 外邦図のアメリカへの流出経路(図幅調査および聞き取りによる)

表1 今回確認した兵要地誌図(LC, AGS 所蔵分)

所蔵	地域	縮尺	名称	製版・発行年	作製者など	特徴	数	索引図
AGS	旧ソ連	極東	10万	作戦用地誌図	1905~13	参謀本部	応急版, 4色刷, 一部露図元図	約30
LC		東ソ	2万5千	地誌図	1938?~	参謀本部	製作2枚	0
AGS		西伯利	2万5千	応急版作戦図	1938~41	関東軍司令部		約30
AGS		極東	2万5千	兵要地誌図	1941	参謀本部	3色刷	2
AGS		西伯利	10万	地誌図	1942	関東軍司令部	一部露図元図, 4色刷	51
AGS		東ソ	10万	地誌図	1943	参謀本部	4色刷	?
AGS		沿海州	不明	海岸地誌図?	1943	参謀本部	山影スケッチ・漁場・里程など	8
LC	ソ満国境	満州・西伯利・蒙古	20万	兵要地誌図	1932~	関東軍司令部	仮製138枚・本製64枚	66
LC		満州・西伯利	10万	地誌図	1938~	参謀本部	製作227枚	217
AGS		満州及西伯利	10万	地誌図	1938~39	参謀本部	3色刷	5
LC		綏遠省	5万	兵要地誌図	1938?~	参謀本部	製作20枚	0
LC		内蒙古	10万	地誌図	1938?~	参謀本部	製作67枚	0
LC	満州	北満州	50万	兵要地誌図	1937	参謀本部	給水地点図示	?
AGS		満州	10万	作戦用地誌図	1941	参謀本部	一部露図元図, 4色刷	17
AGS		満州	10万	地誌図	1942	関東軍司令部	一部露図元図, 4色刷	35
AGS	支那	支那?	10万	作戦用応急版	1935~39	関東軍測量隊	空中写真測量	?
LC		支那?	50万	兵要地誌図	1838~1947	参謀本部	詳細不明	?
LC	北支那	北支那	50万	給水地分布図	1938	陸軍参謀本部		?
LC		山東省	10万	地誌図	1937	参謀本部		?
LC		山東省	10万	兵要地誌図	1940	陸地測量部		?
LC		山東地方	50万	兵要地誌図	1941	陸地測量部		2
LC	中支那	四川省	50万	兵要地誌図	1941	支那派遣軍		4
AGS	南支那	南支那	10万	作戦用応急版	1935~39	関東軍測量隊	空中写真測量	?
LC		福建省	50万	兵要地誌図	1940	参謀本部		2
LC		sen-keyo chiheo	50万	兵要地誌図	1942	陸地測量部		9
LC		雲南省	50万	兵要地誌図	1942	陸地測量部		4
AGS	インドネシア		10万	兵要地誌資料図	1943	参謀本部	蘭図元図, 5色刷	5
AGS	南洋諸島	カララインほか	1万5千ほか	兵要地誌図	1917~24	参謀本部	一部米図元図, 海軍測量	15
AGS		バラオ諸島	10万	兵要地誌図	1915~38	参謀本部	地理的記述, 海軍測量, 3色	3
AGS		カラライン諸島	2万5千ほか	兵要地誌図	1943	参謀本部	地理的記述, 3色刷	31
AGS		マーシャル諸島	3万5千ほか	兵要地誌図	1943	参謀本部	地理的記述, 一部英図元図, 3色	6
AGS		ギルバートほか	10万ほか	兵要地誌図	1943	参謀本部	米図・英図・海図など, 地理, 3色	32
AGS		ギルバート諸島	6万7千ほか	兵要地誌図	1943	参謀本部	地理的記述, 3色刷	4
AGS		マリアナ諸島	2万1千ほか	兵要地誌図	1943	参謀本部	地理的記述, 3色刷	13
AGS		ロク島	2万5千	兵要地誌図	1944	参謀本部	黒・朱・青3色	1
AGS		サイパン島	2万5千	兵要地誌図	1944	参謀本部	黒・朱・青3色	1
AGS		ブル島ほか	5千	兵要地誌資料図	1944	参謀本部		2

資料: 現地所蔵調査による

II 調査先と調査方法

本報告では、2002年9月に実施した、アメリカでの外邦図所蔵調査の結果を速報する。今回の調査先は、①LC (ワシントン DC)、②AGS の Map Collection (ウィスコンシン大学ミルウォーキー校 Golda Meir 図書館)、③ハワイ大学ハミルトン図書館 (ホノルル) の3カ所である。このうちハワイ大

学では、アメリカが日本の外邦図を複製した状況を示す、アメリカの地形図の索引図が確認されたものの、外邦図自体は所蔵されていなかったため、おもに LC と AGS の調査結果報告となる。

LC の Madison 館・Geography and Map 部門では、中国・インドの一部のみを暫定的に調査し、索引カード 132 枚 (地図の枚数にして約 1 万枚分) の筆写と索引図のコピーを行った。また Adams 館では、

表2 朝鮮戦争関係の地形図・空中写真(LC, AGS 所蔵分)

所蔵地域	縮尺	種類	製版・発行年	作製者など	特徴	枚数
AGS 朝鮮 朝鮮南部	5万	地形図	1950	AMS	韓語注記	約40
AGS 朝鮮南部	5万	地形図	1949~51	AMS	韓語・英語併記, 裏面和語	約50
AGS 朝鮮南部	5万	地形図	1949~51	AMS	水色・茶・赤など多色刷	約10
AGS 朝鮮南部	5万	地形図	1949~51	AMS	裏面布張, 表面コーティング	約30
LC 中国 江北界首鎮西方	1万?	空中写真	1943	陸地測量部?	モノクロ	87
LC 江北六甲鎮地区	1万?	空中写真	1942	陸地測量部?	モノクロ	258
LC 江北阜寧南方地区	1万?	空中写真	1942	陸地測量部?	モノクロ	120
LC 江北五河地方・安淮集地区	1万?	空中写真	1943	陸地測量部?	モノクロ	41
LC 五河地区	1万?	空中写真	1942	陸地測量部?	モノクロ	278
LC 江北宝応西南方	1万?	空中写真	1943	陸地測量部?	モノクロ	197
LC 江北興化地区	1万?	空中写真	1942	陸地測量部?	モノクロ	265
LC 中支地域	1万?	空中写真	1942	陸地測量部?	モノクロ	854

資料:現地所蔵調査による

中国全土の産業図など様々な地域のカラー主題図が数十枚と、空中写真2100枚が確認できた。またAGS Collectionでは、実際に目にした約2万~3万枚の所蔵のうち、約400枚に関して実物を一枚ずつ確認して図幅情報を記録し、一部はコピーも入手した。

III 外邦図のアメリカへの流出経路

LC所蔵の、外邦図・日本国内地図を含めた旧日本軍関係資料は、約10万点にのぼる。主な接收元は、東亜研究所、満鉄、陸軍士官学校(習志野)、参謀本部、内務省警保局などである(図1)。海軍は資料の多くを隠匿したため、ほとんど接收されずに済んだという。また、特に外邦図に関しては、戦後の1947年に、日本の共同印刷で改めて複製されたものも多い。その後、国防省戦争部陸軍地図局(AMS)・ワシントン文書センター(WDC)などを經由し1949年までにLCへ渡ったが、未整理のものが非常に多い。AMSには、数はさほど多くないが、すでに戦時中の1942~43年におもに日本国内の地形図が、何らかのルートで渡っていた。

またAGSへは、おもにAMSと日本の地理調査所から1948~51年に渡り、全体の約8割について地域別の仮分類がなされている。

IV 兵要地誌図の所蔵状況

今回の調査結果の最も重要な点は、兵要地誌図が大量に確認され、その図式の概要が明らかになったことである(表1)。まず旧ソ連・満州では、約460枚が確認され、うち3色上刷(朱・青・薄緑)が133枚あった。縮尺はおもに10万・2万5千で、多くは1938~42年に作製されている。記載情報の特徴としては、凍土、森林、季節別の車両通行可能性などである。

次に中国本土(支那)では、50~150枚程度が作製されたとみられ、縮尺はおもに50万(省単位)・10万である。2色上刷(朱・青)が中心と推測され、その多くが1938~42年に作製されている。井戸数・宿営可能人数などの野営情報に特徴がある。

最後に南洋諸島では、108枚の現物が確認され、ほとんどが2色上刷(朱・青)であった。縮尺は各島の面積に応じて異なり、多くが1943~44年に作製されている。記載情報の特徴は、地誌一般、海岸上陸、車両通行、離着陸可能性、水源などである。

この結果、①北方・②中国本土・③南方それぞれの、気候・地形・戦況などに応じた、図式・作製時期・記載情報の違いが明らかとなった。その作製総数は、索引図のみによって確認できるものも含め600~750枚程度、場合によっては1000枚前後とも推測される。また、いわゆる「兵要地誌図」以外にも、様々な種類・図式の軍事作戦地図があることが判明した。

表3 日本の地図史上重要な地形図(LC, AGS 所蔵分)

所蔵地域	縮尺	種類	製版・発行年	作製者など	特徴	枚数
AGS 中国 遼東半島	5万	地形図	1895	陸地測量部	墨字記入, 測量者の署名	29
AGS 遼東半島	5万	地形図	1905	陸地測量部	墨字記入, 測量者の署名	17
LC 支那	2万	地形図	1907~	陸地測量部		?
LC 奉天省	2万	地形図	1926	陸地測量部	英語索引図1950年	12
AGS 馬橋子付近	3千	地形図	1943	参謀本部		9
AGS 石道街傅家庄	1千200	地形図	1943	参謀本部	関東州庁測量	21
AGS 台湾	2万	地形図		陸地測量部	図式は日本国内2万と同一	多数
AGS 朝鮮	2万	地形図	1906~07	臨時測量部	図式は日本国内2万と同一	171
AGS	1千200	地形図	1905	陸地測量部	村落地域	約20
AGS 日本 全国	20万	仮製地形図	1912~13	陸地測量部	3色刷	多数
AGS 沖縄・奄美	5万	集成地形図	1944	参謀本部	地形図+海図	多数
AGS 全国	2万5千	仮製地形図		陸地測量部	明治・大正期作製	多数
AGS 全国	2万5千	地形図	1910	陸地測量部	明治末期の製版	多数
AGS 東京・山口	1万	地形図	1900	陸地測量部		約30
AGS 大阪・神戸	1万	仮製地形図	1923	陸地測量部		約30

資料:現地調査による。

V 朝鮮戦争に使われた外邦図

これと同時に、従来地図史の分野で指摘されていた、朝鮮戦争に実際に用いられたと思われる外邦図も確認された(表2)。AGSでは、①日本軍作製の元図に韓語と英語が印刷され、裏面が麻布下張、表面がコーティングされた地形図、②裏面が日本軍作製の元図、表面が韓語・英語の複製地形図、③英語のみの大判地形図、などが所蔵されており、以上は1949~51年にAMSによって作製されている。また朝鮮の外邦図のほとんどは、1947年にこれも日本の共同印刷で複製されている。

さらにLCでは、①1947年に共同印刷で複製された中国の索引図、②1942~43年に日本軍が撮影したと思われる、中国・北支地域の空中写真が2100枚、③中国の外邦図の裏面にも麻布の下張があるというスタッフの証言、などが確認できた。これらは、朝鮮戦争前後を通じたアメリカの対中国戦略を知る、一つの手がかりとなるかもしれない。

VI 日本の地図史上重要な地形図

あわせて、日本の地図史上重要な地形図もいくつか確認された(表3)。すなわち、①1895年・1905年作製の中国遼東半島の5万図(余白に墨字で測量者の氏名など測量情報の記載がある)、②1905年以降

作製された中国・台湾・朝鮮の2万図(日本の2万図と同一図式)、③1905年・1943年ほか作製の中国・朝鮮の3千・1千200図、などである。

また、日本国内の地形図に関しても、①1912~13年作製の仮製20万図、②1910年ほか作製の仮製・正式2万5千図、③1900年・1923年ほか作製の仮製・正式1万図(東京・大阪・神戸などの大都市部および旧長州藩の山口)、などが所蔵されていた。

VII おわりに

以上の調査結果から、今後の課題として、今回入手し得た図幅・索引図のコピーの詳細な検討を行い、情報をさらに整理し、来年度(2003年度)のアメリカ現地調査にまず生かすことが挙げられる。さらに将来的には、当時の日本やアメリカの軍事的展開の中で、これらの外邦図がどのように作製・利用・複製されてきたのかを、明治期から朝鮮戦争あるいはベトナム戦争までのタイムスパンで検討していくことを目指すことになるだろう。